

黒部市無形民俗文化財

タイマツマツリ
松明祭

- 一、名称 愛本新用水天満宮
- 二、指定年月日 昭和五十六年一月十日
- 三、概要

愛本新で十月五日に行われる奇祭である。

寛政年間には用水辺の雲雀野^{クモリノ} 一帯は水がなく、まうたくの荒野で村民が困りはてていたのを、当時朝日町泊の十村役人であった伊東彦四郎氏が、加賀藩十一代藩主前田治脩公に建言して用水をつくることとし、寛政十年（一七九八）に着工した。難工事に悩まされながら五年の歳月を費して、享和二年（一八一〇）十月六日、三里に及ぶ用水を完成し、念願の水が通り、約四百町歩が美田化された。喜んだ村民は手に手にタイマツをかざし、水の流れを追って貫通を祝った。

それ以来毎年用水完成日に、タイマツ祭りを催し、治脩公の遺徳をしのぶなりわしとなった。この日は長さ八米、重さ四五のキロという大タイマツ二基を村の若衆三千余名によってかつぎ、ほかに子供たちが小タイマツ約二百本をもち夜空を輝かせながら用水ぞいにする終夜火の祭典がくり広げられた。

黒部市

愛本新用水天満宮
教育委員会
黒部市























愛本新御前林の松

加賀藩は、参勤交代のためと旅人の安全のために寛文二年（一六六二）黒部川扇状地の愛本に初めて別橋をかけた。この愛本橋によつてこれまで困難であつた黒部川の通行が一年中容易になり、三日市―浦山―愛本―舟見―泊を通る上街道が開通した。

また加賀藩は、この街道沿いに松を植えさせた後、住民に管理と世話を続けさせた。街道の両側に植えられた松並木は、夏は木陰を作り冬は風と雪よけとなり、往還松や丁松、殿様松などと呼ばれ、旧街道の面影をしのぶことができる。

昭和六十一年十二月二十日に黒部市準指定文化財に指定された。

黒部市教育委員会

























































































